

令和4年度 第2回 鳴門高等学校学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和4年11月15日(火) 10時から12時まで

2 場 所 鳴門高等学校 視聴覚室

3 会 議

(1) 開会

(2) 学校長挨拶

本校の現状について

- ・今夏のインターハイでのサインランゲージ部(手話通訳)、阿波踊り部および陸上競技部の活躍、夏の甲子園大会での野球部の活躍など、好評をいただいている。
- ・県のコミュニティ・スクール推進研修会にて、本校教頭がコミュニティ・スクールの取組について発表する予定である。本学校運営協議会の取組が大いに評価されている。

(3) 協議

①令和4年度の地域との連携について、学校側より2件の報告をした。

- ・「総合的な探究の時間」の取組から

県の高校魅力化推進委員会において、生徒と教員が発表した本校の総合的な探究の時間での取組「～NARUTO MIRAI PROJECT～ハザードマップについて」の報告をした。

- ・「障がいのある生徒の受け入れ体制について」

鳴門市地域自立支援協議会「障がい者サービス調整会議」において、以下の観点から本校の取組について説明した。 ①入学準備について ②高校生活について ③進路について

②授業参観(第3限の授業)

③ 熟議・意見交換

(学校側の報告等についての質疑より)

- ・「小・中だと特別支援学級があるが、鳴門高校は設けていないのか？」の質問について、「高校には通級という制度はあるものの、本校は設けていない。必要な配慮があれば、その都度学校内でフォローしている。」と回答した。
- ・「障がい者の保護者の意見はどのようなものか？」の質問に、「喜んでもらっている。お互いに良い関係が築けている。」と回答した。
- ・「人権展での本校の作品展示について、学校近隣の会場での出展が無い。」という指摘に対して、「本校も出展しているが、展示する会場が鳴門市の調整により決められている。」と回答した。

(全体を通じての委員の方々のご意見等より)

- ・「総合的な探究の時間」の成果発表会は、鳴門市が抱えている課題がよく出ている。また課題発見で生徒の資質能力を生かすことができている。
- ・大学・企業などとのたくさんの連携があって充実している。調べ、考え、発表等を通じた研究、さらに学んだことを広く住民に知らせたり、地域で防災の取組等をしてアンケートをとるところまで行ければ、課題解決の力となり、「夢をかたちに」につながるのではないかと。
- ・一生懸命に勉強している。撫養街道のボランティアについては、先輩でさらに詳しい方もいるので、そのような方の話を聞くのも良いと思う。
- ・鳴門市のコンテンツを多く利用してくれている。成果発表会もぜひ見せていただきたい。小・中学校でもコミュニティ・スクールが始まっているが、学校自身の負担を増やさないよう留意している。学校で困っていることがあれば具体的に提示してほしい。
- ・授業参観が楽しかった。この時間を与えてくれたことに感謝している。
- ・授業参観することで、学校のことがよくわかって良かった。半世紀前と同じようなところもあり、またずいぶん変わっていてもいる。教室が狭い中で、授業を受けているのに驚いた。ゆとり教育、教室のスペースもゆとりが必要と感じた。
- ・コロナで窓を開けているので、隣のクラスの声が聞こえて授業が聞きとりにくいことがあるのではないかと。プロジェクター等の使用で、生徒の興味を引くことができている。

(事務局から学校運営協議会委員の方々へ)

- ・事前に行った教職員へのアンケート結果をもとに、今後の「総合的な探究の時間」における生徒の設定テーマに関する調査活動に、一層のご協力をいただけるよう委員の方々をお願いした。

(4) その他

第3回学校運営協議会(2月中旬の予定)について連絡した。

(5) 閉会